

元

あへなく消えて今はた、

八重の水にとざされぬ。

紅葉染めにし山や此處、

錦とばかり見まがひし、

色消ねはてゝ北風に、

散りて亂るゝ六つの花。

今白妙の世に立ちて、

過ぎ來し方を偲ぶ時、

み空に高き月影は、

物凄き迄さへ渡る。』

漢詩

新 春

鶏鳴報曉一天新。

四海東風聖恩遍。

秋 郊 晚 歸

黃菊丹楓照眼清。

回頭酒旆隱林遠。

迎 春

送臘迎春曙色新。

拜年客去閑無事。

竹 鶯

瑞氣氤氳萬象春。

椒杯獻壽太平民。

全

夕陽幽徑一禽鳴。

好趁歸雲杖履輕。

天 香

舉家獻等酌芳醇。

早有明窓試筆人。

和歌

○

夕暮れの御堂の前に童べひとり

何願ふらん額づきてゐぬ

溝田 在庵

○

身と心直く正しく持てよかし

社の前の杉の如くに

師子吼道人

俳句

○

白梅や今日庵主の不在にして

茶に酔ふて寝られぬ宵や春の雨

春雨や今日も隠居の謠かな

瓦斯營の朦朧として春の雨

春雨やお次ぎに釜のたぎる音

雑談に女もまじる春の雨

○

うつし世のそのひと時を澁茶かな

閑

鶴